

研究実施のお知らせ

2023 年 12 月 29 日 ver.2.0

研究課題名

当院における上腸間膜動脈症候群の診療状況

研究の対象となる方

島根大学医学部附属病院で 1992 年 1 月から 2022 年 10 月までに上腸間膜動脈症候群と診断され、当院で治療を受けた方

研究の目的・意義

上腸間膜動脈症候群は十二指腸水平部が上腸間膜動脈と腹部大動脈との間で圧迫され、閉塞症状を呈する比較的稀な疾患です。症状は嘔気、嘔吐、腹満感、体重減少など非特異的であるため、診断されないまま数年間症状が持続する症例も少なくありません。治療は体位変換による閉塞解除や栄養療法による上腸間膜動脈周囲の脂肪増加などの保存的加療と、難治例には外科的バイパス術が施行されます。死亡率は 33%という報告や発症後早期に死亡する症例も報告されており、早期診断が非常に重要です。好発年齢は 10～39 歳と報告されていますが、当科では近年「高齢発症」の上腸間膜動脈症候群を多く経験しています。若年者に多い疾患であり、若年者における原因や治療法は比較的確立されていて、神経性食思不振症による体重減少と側弯症手術が原因となることがわかっています。一方、「高齢発症」の誘因や適切な治療法については明らかではありません。このような現状を踏まえて、当院で加療を行った上腸間膜動脈症候群症例を集計し、若年発症例と高齢発症例の病態と治療法の違いについて検討することを目的としています。上腸間膜動脈症候群は非常に稀な疾患ですので、対象者の背景や原因、診療状況を把握することはより正確な病態の解明と適切な治療法の確立につながると考えます。特に高齢者は入院治療に伴う廃用や合併症の発症リスクが非常に高いです。本研究によって上腸間膜動脈症候群における高齢者特有の病態が把握できれば、早期治療・早期退院・発症予防に役立つと考えます。

研究の方法

診療録から収集した、当院で 1992 年 1 月から 2022 年 10 月までに上腸間膜動脈症候群と診断された症例を対象とします。確定診断は CT 検査あるいは超音波検査にて上腸間膜動脈と大動脈による十二指腸閉塞が確認された場合とします。対象者の背景(年齢、性別、body mass index、併存疾患、常用薬、日常生活動作)と診断方法(CT、超音波、内視鏡、血液検査、消化管造影)、治療法(体位変換、投薬、経鼻胃管ドレナージ、手術)、治療経過(合併症、転機)を評価する予定です。

収集したデータは、島根大学医学部内科学講座(内科学第二)内の外部から容易にアクセスできない PC に保管いたします。PC にはセキュリティを設定し、パスワードで使用可能な研究者を制限します。研究対象者の識別は研究用の識別番号により行い、その対応表は収集データとは別に、施錠可能な場所で研究責任者が適切に保管いたします。外部への持ち出しは行いません。研究に関するデータ及び関連資料は研究の終了を報告してから少なくとも 10 年間保管し、その後個人の識別ができない状態で廃棄(消去)いたします。

研究の期間

2022年11月21日～2025年3月

研究組織

この研究は島根大学医学部内科学講座(内科学第二)が行います。

研究責任者(研究で利用する情報の管理責任者):

島根大学医学部内科学講座(内科学第二) 岡 明彦

情報の利用停止

ご自身の情報をこの研究に利用してほしくない場合には、ご本人または代理人の方からお申し出いただければ利用を停止することができます。なお、利用停止のお申し出は、**2022年12月**までをお願いいたします。それ以降は解析・結果の公表を行うため、情報の一部を削除することができず、ご要望に沿えないことがあります。

相談・連絡先

この研究について、詳しいことをお知りになりたい方、ご自身の情報を研究に利用してほしくない方、その他ご質問のある方は次の担当者にご連絡ください。

研究責任者:

島根大学医学部内科学講座(内科学第二) 岡 明彦(おか あきひこ)

〒693-8501 島根県出雲市塩冶町 89-1

電話 0853-20-2190